



最後の試合に向けて調整する小塚さん

輝いています

総合格闘技ジムFREEDOM@OZ 代表

ひと

おつか せいじ さん
小塚 誠司 さん

格闘技で蔵を盛り上げたい

今 月19日に市民体育館で開催される、入場無料の格闘技合同興行「ありがとう・蔵」。これは、蔵を拠点とする女子プロレス団体・アイスリボンと総合格闘技ジムFREEDOM@OZ（以下OZ）がそれぞれ設立10周年を迎え、蔵市市制施行60周年記念事業として共催されるチャリティイベントです。この興行で引退試合に臨むのが、OZ代表の小塚誠司さん（40歳・中央1丁目）です。

高校時代に総合格闘技の試合をテレビ観戦し、体格差のある相手を倒す小柄な格闘家の勇姿に魅せられた小塚さんは、卒業とともに茨城から蔵へ。総合格闘技団体で打撃、投げ技、寝技などを体得し、プロデビューを飾ります。その後、練習仲間を誘い市民体育館で社会人格闘技サークルを主宰。初心者指導も行うようになり、そこでの経験を基にOZを設立しました。「格闘技しか知らないの、それを人に教えることが自分の生きる道」と話す、小塚さん。ジムで教えながら自らも練習に励み、平成24年には総合格闘技で名高いパンクラスのスーパーフライ級でタイトルマッチを経験。平成29年にはジムで切磋琢磨し合う同僚が同フライ級チャンピオンとなり、小塚さんはストロー級の王者挑戦者決定戦まで進出。力を出し切りました。

引退後の人生で、どう結果を出していくか。自分を育ててくれた地域に貢献したいと考えた小塚さんは、とどろび青年会議所に入会しスポーツ振興事業などに携わったほか、昨年はOZ主催のチャリティイベントを市民体育館で開催しました。「これからもずっと人生の勝負は続きます。19日の試合も勝ちに行くだけ。蔵を盛り上げるべく、ほんものの勝負をお見せしますよ」。決戦は目の前です。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.41 —



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

暁斎は、明治14年(1881)の第二回内国勲業博覧会に出品した《枯木寒鴉図》で日本画最高の妙技二等賞牌を受賞しました。しかもその絵が高値の「百円」で売れた。以後は鴉図を数多く描き、鴉にちなんだ印も作るようになりました。本図も「万国飛」という印文から、妙技二等賞牌を受賞した後に描いたと分かります。柿の木にとまった一羽の鴉が、ひとつだけ残った柿の実を眼光鋭く狙っています。あらゆる生き物を写生して記憶に残し、手本が無くても描くことが出来た暁斎ならではの、息詰まる瞬間を描いた作品です。

河鍋暁斎記念美術館 10月25日(金)まで

「暁斎の团扇絵—実用と鑑賞—」展 同時開催
「匠の技 江戸庶民の愛した「狂斎百図」復刻—摺師 三田村努の世界—」展

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日・毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円 小・中学生300円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館(☎441-9780)



暁斎筆「柿に鴉図」
絹本墨画、朱 軸装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます